

この話はリンゴの木のことであつたが、今私たちが直面している肌トラブルや病氣と全く同じことだと思つた。ニキビや湿疹には薬を塗る、風邪を引いたら薬を飲むなど、今は対症療法をすることが当たり前で、症状もすぐには良くなる。そうして私たちは完治したかのように思つてしまふのだが、薬によつて抑えられただけのことであつて、根本的な解決にはなつていない。解決にならないばかりか、自分の身体が覚えている異常のサインを消してしまつていゝ。身体が本当は何を求めていゝのか、目の前で起つていゝ事実だけではなく、もつと深い部分の本質に目を向け、向き合つていく必要がある。

また、薬による副作用や添加物、依存性なども考えなければならぬ。リンゴの木が農薬や肥料によつて自然の抵抗力を失つたように、薬によつて私たちは自己治療力を失ひ、病氣やトラブルを引き起こしやうい身体になつてしまつた。自分の身体を犠牲にしてま

薬を使うことが良いことなのか。薬を使うことが常識とされていゝが、それは間違、ていゝと教えてくれるのはほんの一握りで、知らずにいゝ人も多いのではないだろ、うか。医者のかまにならぬのはよく、この負のレ、70から抜け出し、病氣にならない自分にならないければいけない。対症療法ではなく、自然治療力を高める方法をもつと取り入れ、予防医学に重きを置いた生活をしていかなければならない。また、それを伝えていく必要がある。

追加物や薬の害は身体に確実に溜まり、私たちの身体を蝕む。病氣になつてから気付いては遅いのだ。木村さんはとても努力した。世の中一筋縄ではいかないことの方が多い。しかし、諦めが何度も失敗を繰り返し、そことん追ひ詰められた。その姿を神様はちやんと見てくれていたのだろ、う。だから死のうとし、たあの時、ヒントを与えてくれたのだと思ふ。努力し続けることは勇氣がゝいる。責任を伴ふこともあ

る。険しく辛いことの方が多し。人は弱い生き物だから、楽な方に進みたくなくてしまふ。しかし、そこを乗り越えることは大きな成長に繋がる。自分ひとりが大変で、誰も分かってくれる人がいない。そう思ったときは、神様だけは見てくれていると思つて頑張つてみてもいいのではなうか。神様だけがはななく、その努力している姿を見ている人は必ずいるし、努力は決して無駄にはならない。自分の選んだ道は決して間違つていない、そう信じて自分の道を貫く勇気を手えてくれる話であつた。